

NOP NEWS

2020年

25
号

ニュー・オペラ・プロダクション

〒168-0064 東京都杉並区永福 3-20-3 TEL : 03-3328-0817 FAX : 03-3328-0655
e-mail newopera@jcom.home.ne.jp URL http://newopera.jp

明けまして、おめでとうございます。

杉理一個人の立場では、昨年5月15日に東宝の映画女優として、日米友好の文化交流使として活躍した姉、葉子が90歳の生涯を閉じたので、喪中ということで、欠礼しなければなりません。ニュー・オペラ・プロダクションの代表という公的立場では、昨年も多大のご声援、ご支援をいただいた皆様には、プロダクションの活動報告とご支援への感謝の気持ち、更に、新年が皆様にとってより佳き年でありますようにとの願いを込めての「おめでとうございます」の言葉をお送りしないわけにはまいりません。

昨年も日本の政界、官界は益々、腐敗の一途を辿り、ごまかし損なって、ばれたら、その場凌ぎに、林立するマイクの前で、口先だけの謝罪で最敬礼、陰に回れば、「うまく行った！」と舌を出して大ニコニコで乾杯。彼等をここまで増長させたのは一体、誰なのか、私達が改めて考え見極めることが大事、と思わざるを得ません。

昨年は大会が日本で開催されたこともあって、ラグビーが世の注目を集めました。ラグビー、サッカー、卓球、野球等のスポーツには大衆の関心が集まり、派手バテしくマスコミの波に乗り、世の注目を集めますが、文化活動は成果が目に見える華々しさがなく、地味で、お金も儲からないせいか、大きな話題にされることも殆どありません。しかし、88歳の知力体力衰退にもめげず、NOPは昨年も小さい組織で非力故、小さい成果かも知れませんが、こつこつと懸命に出来る限りのことをやりましたので、ご報告致します。

ニュー・オペラ・プロダクション代表 杉 理 一

NOP オペラ・ビデオ鑑賞会講座 第15シリーズ終了

NHK在職30年間、私は主としてオペラ番組を担当して来たので、その間に自分が何らかの形で関わった番組を記録し、よりよい番組作りの研究材料とするために録り溜めたビデオが数百本に及び、教育テレビ放送記録を残していなかったNHKアーカイブスに四百本を寄付し感謝もされました。この資料を生かし、何とか日本でのオペラ文化の普及振興に役立つ方法がないものか、考えた末、思いついたのが、このオペラ・ビデオ鑑賞会で、2012年以来、春秋4回ずつ東京文化会館、東京芸術劇場会議室で続けてまいりました。

講座は毎回、3、40人のオペラ愛好家の方々が出席され、NHKイタリア歌劇公演の名場面集や、世界一流歌手達によるアリア・コンサート等のプログラムを大変、喜んで下さり、そのお声に励まされ昨年10月26日の回で全15シリーズ60回となる筈でしたが、残念ながら、その2週間前の10月12日の講座が台

風19号の襲来で電車不通の恐れ、激しい風雨での転倒などの恐れを考慮し、急遽、休止にしましたので、59回どまりとなってしまいました。

休止になった回にはレナータ・スコット主演の第5回NHKイタリア歌劇公演「ルチア」を、ご鑑賞いただく予定でしたので、もし、出来たら、そのテーマで今春に1回、特別講座を開き、台風のため出席できなかった皆様に、お楽しみいただきたく思っています。



鑑賞会講座風景

石川県立音楽堂邦楽ホール「耳なし芳一」公演、満席拍手大喝采でもNOP大赤字?

昨年8月11日、作曲者の池辺晋一郎さんが洋楽監督を務めているオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)からの依頼で、オペラ「耳なし芳一」を石川県立音楽堂邦楽ホールで上演するのに制作、演出面で協力しました。

金沢で「耳なし芳一」を上演したのは、これが二度目で、十年前の2010年、金沢、射水、横浜の三都市提携公演に、やはり制作、演出の面で協力し、各回とも満員のお客様から喜ばれましたが、今回は主催者側からの注文で、公演の前半に今人気高い講釈師、神田松之丞の新作講談「耳なし芳一」を入れ、オペラの方でも、最初と最後の締めくくりのナレーションを今迄の仲代達矢に代わって神田松之丞が務めました。主役も芳一役が中鉢聡の代わりに所谷直生、武士が三戸大久、和尚は志村文彦で変わらず、与作、おふくは青山貴、竹多倫子に、琵琶奏者は半田淳子から、その弟子の石田さえに変わりました。猛暑の中、私は演技指導に何回か金沢へ新幹線で通い、舞台上で合唱に演技付けしてる最中、段差に足を取られて転倒、全身打撲で救急隊員が駆けつける騒ぎもありましたが、何とか頑張って稽古を続けました。今回も、芳一役の所谷には盲目者の演技と琵琶を弹奏しつつ平家物語を語る技術が要求され、その指導には苦勞しましたが、最終的には、よく頑張って、こちらの期待通りに、芳一になり切った演技と歌を披露し、補助席まで出る超満員のお客様から拍手大喝采をいただくことになり、終演後、「素晴らしかった」「感動しました」という賛辞を多数いただくことが出来ました。

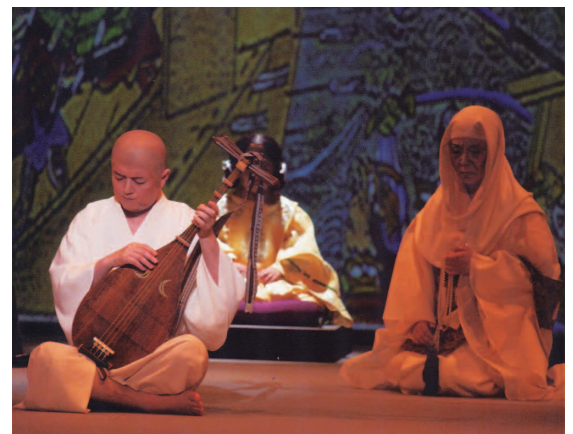
しかし、制作協力の面では大変なことが起こりました。池辺さんの注文で、今回は演出面で今迄と

違った一工夫を加えて欲しい、と言われ、このオペラの見どころの一つ、紗幕と照明で、平家の墓地が一瞬にして、公家や武士や奥女中が居並ぶ御所へ変わる部分を、スライド・プロジェクターを使って、より幻想的に仕上げることを考えました。大道具、小道具、衣装、かつら等の業者へ発注する前から、主催者との間に契約を結ぶ必要に迫られ、制作費は凡そ、この程度という今迄の経験に基づいた計算で、契約を締結したところ、舞台製作業者から、思いもよらぬ高額の見積もりが出て、これ以下では出来ない、と言われ、主催者も契約済み、と突き放され、止むなく、赤字覚悟で公演を仕上げました。

今迄、東急文化財団がNOPの日本の創作オペラに毎回、多額の補助金を出してくれるので、今回も助成金申請することをアドヴァイスしたところ、OEKは100万円の助成を受けることができました。邦楽ホールは常設客席数727席、今回はオーケストラ用に80席削られたので、招待もあったでしょうから売れたのは約600席、全席指定で入場料は一律5500円、総収入は助成金を含めると400万円余、それなのに、制作を請け負ったこちらは百数十万の負債を背負い込むことになりました。日本各地で50公演を越す公演を制作協力してきて、初めての大打撃でした。歳のせいにはしたくありませんが、私の見積もりのうっかりミスと言うのでしょうか、仕方がありません。しかも、主催団体責任者が十年前と代わったせいもあるかも知れませんが、今回のように冷たく、あしらわれたのはNOP創立以来初めてのことで、「この団体とは金輪際、二度と仕事をすまい」と心に決めました。



亡霊御殿で琵琶を奏し平家物語を語る芳一



芳一(所谷)と亡霊の尼僧(直江学美)

世にも不思議な巡り合わせ

「芳一」金沢公演プログラム掲載文

「耳なし芳一」の音楽稽古に新幹線で金沢に来て、6月25日に第1回目の立ち稽古をやり、翌日、泊まったホテルは午前10時チェックアウト、その日の稽古は午後3時、その間の時間潰しに評判の高い21世紀美術館へ行きました。

しかし、入場券売場に行って、びっくり、百人位の人が蛇行で黒山のような人だかり。ポスターを見てびっくり。なんと、「粟津潔デザイン展」。粟津潔と言えば、日本国内は勿論、海外にも名を馳せた優れたグラフィック・デザイナー、この土地の出身者で十年前に亡くなったそうですが、65年前、私が日活映画会社の宣伝部員だった頃、彼とは机を並べた職場の仲間だったからです。その後、私はNHKの音楽部へ転じ、主としてオペラ番組を担当、30年勤め上げ、定年退職後、オペラの普及振興を願ってニュー・オペラ・プロダクションを設立。1993年、その第3回自主公演にオペラ「耳なし芳一」を舞台初演することになった時、苦しい予算の中からひねり出した10万円で、ポスターやプログラムのイラスト・デザ

インを、粟津君のところへ、お弟子さんを紹介してくれるようお願いに行ったら、「そんな予算では、弟子も引き受けないよ。」と言われ、がっかりしていたら、「昔仲間のよしみで、僕がやってあげよう」と

言ってくれ、みごとなイラストが出来上がったのです。その3年後の「耳なし芳一」再演の時も彼のデザインを使わせて貰いました。

その粟津君のデザイン展にぶつかるとは！ 運命の巡り合わせの不思議を思い、彼が天上から見守ってくれていることを信じ、公演の成功に全力を注ぐ決意を更に固めました。



全国オペラ min フォーラムで映像特別企画に協力

全国各地でオペラ活動を展開している団体が互いに連携、情報を交換し協力して行く組織として、全国オペラ・ネット・ワークが2004年に設立され、私は2015年迄、その運営委員長を務め、後は埼玉県で活動を続けているオペラ彩の主宰者、和田アキ子さんに引き継いでいただきましたが、その和田さんから、昨年10月22日、川口総合文化センター・リリア大会議室での全国オペラ mini フォーラムでの映像特別企画としての講演を頼まれました。そのご希望のプログラムは、来日した世界一流歌手15人によるアリア集で、私は映像を、お見せしながら、それにまつわるお話をしましたところ、これまた、皆さん目を丸くして、「こんなに凄い歌手達の歌が一遍に聴けるなんて！」と喜んでいただくことが出来ました。実は、これと同様のテーマで、NOPオペラ・ビデオ鑑賞会第3シリーズの2回目にやって、大変評判が良かったので、その噂を知った青葉区オペラを楽しむ会でも、是非、そのテ

マでと頼まれ、昨年正月にご披露、その好評が伝わりに伝わって、この全国オペラ mini フォーラムでも、楽しんでいただくことが出来たのです。

世界一流と言われる歌手達は、かつら、メイク、衣裳はなくとも、ただ、ピアノ伴奏で、突っ立ってアリアを歌うだけで、そのオペラの舞台を見たことのある人には、その想像力をかきたてて、あたかも、実際のオペラ舞台上で演じる姿を目の当たりにし、感動することが出来る、ということをしみじみと身に沁みて感じ取られたことと思います

主催：全日本オペラネットワーク 全国オペラ団体・奏者・愛好者などご興味のある方
全国オペラ mini フォーラム vol.7
特別講壇 三枝成彰氏
「当たるオペラの条件とは？」
～作曲家が自ら語るオペラ作りの現場～
映像特別企画 杉理一氏
【世界一流歌手 来日秘蔵映像上映】
デル・モナコ/マリア・カラス/デ・ステファノ/ルチアーノ・パヴェロッティ/ニコライ・ギャロフ
グンドラ・ヤノヴィツ/アグネス・バルツァ/ミレル・フレニ/ホセ・カララス/レオター・スコット
テレサ・ベルガンサ/エリナ・オプラストワ/アラント・ドミンゴ/モンセラット・カブレ
ヒョ・カプチャリ

横濱市青葉区オペラを楽しむ会講座 好評裡に続く

横濱市青葉区オペラを楽しむ会講座を主催する近藤恒夫さん、後藤啓二さんが、おそらく、東京文化会館での講座の情報をお知りになったからでしょうが、2017年から、青葉区の藤が丘区民センターでも同様のオペラ普及活動をしているので協力して欲しいと頼まれ、18年に続き、昨年も1月、



5月、7月、11月と各2回、オペラ・ビデオ鑑賞会の講師を務めました。

1月は「来日した世界一流歌手による絢爛豪華な夢のオペラ・アリア・コンサート」、5月は「シュヴァルツコップに光を当てて」、7月は「グルベローヴァに光を当てて」、11月は「来日したドイツ歌曲の名歌手達に光を当てて」というテーマで楽しんでいただきました。来年は1月15日、31日が予定されていて、そのテーマ・タイトルや開始時間、場所は現在、楽しむ会代表の近藤恒夫さんの方で検討中ですので、お問い合わせ、お申し込みは、そちらの方へ、お電話して下さい。(045-901-5645)

静岡グランシップ「音楽の広場」7回目の字幕監修

「3000人で創る真夏の音楽祭」と銘打ち、静岡のグランシップという大会場でオーケストラが257人、合唱が307人という日本最大のコンサートが昨年8月4日に行われ、今回も頼まれて、歌われたオペラ・アリア、二重唱、合唱の字幕監修を務めました。例年通り、指揮は広上淳一さん、司会は堀尾正明さんで、歌手は昨年4月、藤原歌劇団公演「蝶々夫人」で主役を歌って好評を博したソプラノ

の小林厚子さんとテノールの笛田博昭さんでした。

このコンサートでも小林さんは「ある晴れた日に」と、笛田さんとの第一幕の二重唱を歌い、笛田さんは「トスカ」の「星はきらめき」も歌いました。他に合唱曲では「ナブッコ」の「行け、我が思いよ、金色の翼に乗って」と「タンホイザー」の「歌の殿堂をたたえよう」など、昨年広い会場が熱気に包まれて燃え上がるようでした。

オペラシアター・こんにゃく座「末摘花」上演に協力

昨年10月、オペラシアター・こんにゃく座代表の萩京子さんからお電話で、今年9月9日から六本木の俳優座で「末摘花」を上演したいので、楽譜を貸して、と頼まれました。こんにゃく座は1971年の創立以来、林光さん作曲作品を中心に日本のオペラを各地で上演している団体で、林さんは、私がNHK在職初期からの知り合いで、日本のオペラ普及振興に務める同志であり26年前、NOP第4回公演の間宮芳生作曲「昔噺人買太郎兵衛」「鳴神」の二本立て

公演を見た林さんが「僕の作曲した『あまんじゃくとうりこひめ』と『おこんじょうりり』も二本立上演してよ」と言われ、「では、オーケストラ伴奏版を作曲して下さい」と頼んだ結果、NOP第7回公演での両作品上演となり、大成功の結果に林さんは大満足でした。

「末摘花」はこんにゃく座でも大活躍の寺嶋陸也君に作曲を委嘱した作品でもあるので、こんにゃく座公演の成功を心から祈っています。

オペラ・スクオーラ講座「オペラに魅せられた70年」

昨年11月半ばに昭和音楽大学から依頼があり、2月6日に新百合が丘の大学内のホールで、百人のオペラ好きの人達の勉強会「オペラ・スクオーラ」でオペラの映像付き講座の講師を務めることになりました。

テーマは「オペラに魅せられた70年」、藤原義江さんの貴重映像、熱気溢れる藤沢市民オペラ「ファウスト」、数々のNHKイタリア歌劇公演の歴史的な場面などを、お見せしながら、お喋りする予定です。